

## 申入書

「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）を基にした市大と府大の統合案が、いまま府・市・両大学の間で進められていると知り、私たち学生はとても不安に思っています。

この構想の推進過程において、私たち学生に対する説明会がいまだに一度も開かれていないということを私たちは疑問に感じております。両大学の学生は統合の影響を最も強く受けるステークホルダー（利害関係者）です。統合に関する説明がなされないだけでなく、その過程に学生が加えられないのであれば、より良い大学になるとは思えません。今後の大学のあり方を考えるに向けて、学生に説明・議論する場が設けられていないということは、最初から私たち学生の意見は考慮するつもりがなかったのだと思わざるを得ません。また大阪市の特別区設置住民投票の前でさえ何ら説明がありませんでしたし、両大学には住民投票権のない学生も多かったですので、住民投票が学生の意見表明の場であったとは思えません。自分たちが通う大学が住民投票の結果によってどのように変わってしまうのか（たとえばキャンパスはどこになるのか、サークルや部活はどうなるのか、いつから統合されるのか、教育の質は低下しないか、大学の伝統や気風はどうなってしまうのか、学費に影響しないかなど）、分からないことばかりの中で住民投票日を迎えねばならなかったことは精神的に大きな苦痛でした。私たち学生のみならず、両大学と共に過ごしてきた多くの市民・府民や卒業生、保護者も十分な説明を受けることなく今日に至っています。

確かに大阪市大のウェブサイト上では新大学構想について説明するページが設けられています。しかしながら学生が普段閲覧するポータルサイトの方で随時情報発信されてこなかったのはなぜでしょうか。本当に学生に対して説明し合意を得ていこうとするなら、ポータルサイトに掲示するべきであると考えます。

また2013年度に各学生の自宅に対して新大学構想に関するパンフレットが送られてきたり、また学生と保護者から募った質問に対する回答がウェブサイト上で公開されたりといった取り組みはなされてきました。しかしながらそれだけで学生に対して十分説明がなされたとは私たち学生は到底思えません。また2014年度以降に入学した学生に対しては、そういった取り組みさえなされないまま現在に至っています。

これまでも、在学生による陳情書、パブリックコメント、種々の団体による批判声明、一万筆以上の署名といった形で、私たち学生のみならず、多くの市民・府民、卒業生が統合反対の声をあげています。こういった声に対して何一つ応答しないまま生まれる新大学が、この先入学する学生や、自治体住民、広くは日本社会全体の要求に答えて行く大学になるのか甚だ疑問です。またこの構想作成の経緯を振り返ると、両大学内で民主的議論が行われた結果、内発的要求として統合という結論が生じたとは思えません。大学内外どちらにおいても議論が十分尽くされたとは言えない状況で、最初から統合を前提にして強引に推進することは、民主的な大学運営の伝統を尊重したやり方とは言えません。

私たち学生は、もうこれ以上一方的な決定に振り回されるのは耐えられません。

当事者である私たち学生や両大学の行く末を案じる人々に対して、きちんとした説明もないまま、私たちの声に応答することもなく、強引にこの構想を推し進めることはやめていただきたく、以下の3点を申し入れます。

- 主に学生を対象として、現在の進捗と決定事項の詳細を可能な限り説明する場を大阪府知事・市長ダブル選挙の11月22日までに設けてください。
- これまで学生向け説明会が開催されなかった理由を説明してください。
- 今後は学生および関係者の要望に応じて、開かれた場で決定事項を報告し、参加者と議論し、真摯に応答してください。

2015年10月8日

大阪の公立大学のこれからを考える会（市大・府大学生有志の会）